徳島県総合計画審議会「新未来創造部会」会議録

Ⅰ　日　時　　平成30年9月13日（木）　午後1時～午後2時30分

Ⅱ　会　場　　徳島県庁10階　大会議室

Ⅲ　出席者

【委員】14名中　8名出席

金貞均部会長、松﨑美穂子委員、真鍋恵美子委員、赤池雅史委員、

植本修子委員、大平修司委員、黒川喜美恵委員、宮脇克行委員

【県】

政策創造部長　ほか

Ⅳ　議題

1　新たな総合計画「長期ビジョン」（骨子案）及び「中期プラン」（イメージ）について

2　その他

《配布資料》

資料1 新たな総合計画に係る県民意見聴取の取組み

資料2 若者クリエイト部会「若者意見取りまとめ」

資料3 新たな総合計画「長期ビジョン」の構成案

資料4 新たな総合計画「長期ビジョン」（骨子案）・「中期プラン」（イメージ）

参考資料 新総合計画策定スケジュール

Ⅴ　会議録

1　新たな総合計画「長期ビジョン」（骨子案）及び「中期プラン」（イメージ）について

事務局より新たな総合計画「長期ビジョン」（骨子案）及び「中期プラン」（イメージ）について説明の後、意見交換が行われた。

（金部会長）

ご説明いただいた「長期ビジョン」（骨子案）及び「中期プラン」（イメージ）について、何かご質問、ご意見等ございましたら、ご発言をしていただきたいと思います。どなたからでも結構ですので、お願いします。黒川委員、お願いします。

（黒川委員）

資料を見ての感想というか、聞きたい事があります。

若い人たちの意見の中とか、いろんなところで、公共の交通網がとにかく悪いと。私、こちらに引っ越してきてもう７年になりますが、ペーパードライバーでした。でも、ＪＲの駅が近くにある所に引っ越してきたので、なんとかなるだろうと思っていたのですけど、やっぱり車がないと子どもを病院にすら連れていけないというのが分かって。今は、移住とかを考えてる人には、免許を取ってから来た方がいいよと。免許なくて免許があった方が良かったなと思っても、免許すら取りにきっと行けないからって。その、教習所にも多分自分の足ではいけないから免許を取ってから来た方がいいよというぐらい免許が絶対必要だなというのがあります。今、上の子どもが中学生になったんですけど、今まだそんなに関係ないけど、デートすら行けないんだなというのをすごく感じていて、どっちかの親が車でデートの場所に連れて行ってあげないと、デートすらできないんだなというのに結構ショックを受けて。私、７年前に引越してきて、６年ぐらい前から地域の様々な会に参加させてもらって、その発言をしたんですけども、今も、それこそ公共交通網は全く良くならず、どちらかというと、もっと悪くなってるんじゃないかなという感じで。そこは本気で考えないといけないんじゃないかなというのが若者の意見でも、車を前提として全ていろんなことが決まってる、１８歳の車の免許を取るまでの人たちはじゃあどうすればいいんだというのがすごい大問題だと思っていて。移住を考えてる人に免許取ってからじゃないと来れないよと言わなきゃいけないのが、じゃあ徳島やめようという一つの原因になっちゃうのではないかなと思っていて、もうちょっと鉄道が難しいんだったら鉄道の本数を増やす、それも難しいんだったら、もうちょっとバスとかをいろんなところを循環させて、そういう感じで、どっかの停留所ではここととここの路線が一緒になるからまたここで乗り換えとか、そのようにしていかないといけないのではないかなという事が一つ。

もう一件が子育て支援。例えば保育所を整備するとか、働きやすくする、学校とか行くようになったら放課後とかを充実させるとか、そういうのが子育て支援とよく言われるんです。ここでとにかく漏れてしまうのが、産前産後の子育て支援だと思うんです。産んだすぐ、もう産んだ当日からの子育て支援というのは結構見過ごされていて、この前も新聞で載っていたのが、産後うつで子どもが一歳になる前に自殺してしまうお母さんが多かったり、虐待とかも０歳児が一番多いというのは、産後うつが関連しているのか、それともまだ子供が小さすぎて分からなくて虐待をしてしまうのか、そこの原因は私は分からないですけども、０歳児が多いというのはよく言われていることで、それはデータでも出てるんです。子育て支援という中で、とにかくここの産前の妊娠８か月ぐらいから産むまで、そして産んでからの１か月ぐらい、１か月経つと１か月検診とか２か月検診があったり保健師さんの訪問があったりとか、行政としては子育て支援してるとは思うんですけど、すごい短い期間のここの子育て支援というのが結構漏れてる部分なので、私は徳島県がこういうことやってるというのは、知らなくて調べきれてないんですけども、やってることがあれば教えてほしいですし、そこについては

こう考えてるというのを知りたいです。子育て支援は妊娠前から、妊娠してから、産んですぐ、産んでからとすごく長いビジョンになると思うので、本当に大まかに、子育て支援、子育て支援と言うんですけれども、各点が線につながる支援だと思うので、県としては子育てしやすいですよと言っても、その子育て支援がどの辺までいってるのかなというのを知りたいと思っています。その二点分かるところで知りたいです。

（金部会長）

はい、お願いします。

（事務局）

まずは一点目の公共交通網のお話をいただきました。「新未来セッション」ということで、県内３圏域で高校生、大学生、また地域の方を対象に、７月に開催してきました。その中で、やはり高校生の方から、今、黒川委員さんからお話があったように、県内の交通はどうしても車中心で考えられていて、なかなか高校生にとっては、通学とか遊びに行くにも当然車の免許はない。鉄道とかバスといってもなかなか本数がない。例えば、県南の方、高校生が徳島市内に遊びに来ても、1日かかるというようなご意見等も頂いてたところでございます。

公共交通網については、やはり人口減少、それから、本県は特に過疎化も進行しており、今ある公共交通網のストックという中で、例えばバスとか鉄道の連携をもう少し工夫できないかとか、当然、高齢者の方とか交通弱者と言われる方も多くいらっしゃいますので、そういったところは考えているところでございますし、この計画の中でも、４年間の行動計画といった具体的な施策に落とし込んでいきますので、そういった中で頂いたご意見をしっかり考えていきたいと思っております。

（保健福祉部）

保健福祉部でございます。先ほど産前産後の支援についてお話をいただきました。県では、産前産後に関する事業では、産前産後サポート事業というのと、産後ケア事業を行っております。現在は、徳島市、鳴門市、小松島市の３市がこれらの事業に取り組んでいるところでございます。県におきましては、保健所が中心となり、相談窓口での相談支援、それと、家庭訪問による妊産婦の方の支援を行っております。それと、事業の実施主体というのは市町村となりますので、産前産後ケアの事業を円滑に実施できるように研修会や会議などで事業を支援しております。

先ほど、妊産婦のうつの自殺という話がありましたが、９月６日で報道がありました国立成育医療研究センターの調査結果で、2015年から2016年の２年間に、妊娠中の、産後に自殺した女性の方が、妊産婦死亡数の約３割を占めていたということで、産後うつということが指摘されております。県では、昨年度の29年度、産後うつに適切に対応できるように、産後ケアマニュアルを作成しました。現

在、県の周産期医療協議会の専門部会で、平成30年２月にメンタルケア部会を立ち上げて、妊産婦のメンタルヘルスに対する対策について検討を開始しているところでございます、以上でございます。

（県民環境部）

県民環境部でございます。県民環境部におきましても、先ほどご説明いたしました保健福祉部の取組以外にも、いくつか事業をしております。一つは、産前産後の母親相談事業ということで、県の助産師会にお願いしまして、助産師の方々に、妊婦の方、それから産後間もない、産後大体３か月か４か月ぐらいまでの母親の皆さんを対象にして、健康相談や育児相談といった事業を県内３か所で、年間７、８回開催させていただいております。

それから、乳児家庭全戸訪問事業ということで、先ほど、委員から、生後１か月までが非常にバイタルな部分というお話を頂きましたけれども、生後４か月までの乳児について、市町村の方から全ての家庭を訪問して、子育て支援の情報提供とか、今の現状把握とか、そういったものを行って、問題のあるところを早期発見できるような取組をやっているところでございます。

それから、ファースト・ベビー講座と申しまして、初めて赤ちゃんを持ったお母さんのために、子育てに関する知恵とか知識を、同じ立場のお母さん方が共に学ばれるような講座を、県内３か所で、ＮＰＯのみなさんにお願いして実施しているところでございまして、ここにおいでになる松﨑委員さんにも大変お世話になっております。ありがとうございます。

こうした事業を展開しておりますが、本日、９月定例県議会が開会になりましたけれども、そこでまた、新たな事業として「とくしま在宅育児応援クーポン事業」というものを立ち上げたところでございます。まだこれから、県議会のご論議いただくところでございますが、予算をお認めいただけましたら、在宅で、小さいお子さんを子育てしている家庭にクーポンをお配りしまして、そのクーポンで、先ほどお話もでました、産後ケアに係る利用料なども払えるようにしたいと考えておりまして、子育て家庭の精神的な負担を、少しでも軽減できればなといったことを考えております。こういったサービスを、保健福祉部と連携して、できるだけニーズに応えられるように頑張っていきたいと考えております。以上です。

（金部会長）

ありがとうございます。黒川委員どうぞ。

（黒川委員）

それだけやってるのであれば、もっとちゃんと広報をした方がいいと思います。それを利用する人、また、お母さんだけじゃないんです、家族ですね。家族とかおじいちゃんおばあちゃんが、外の人の手を借りるのが悪いからと言ったりとかするので、おじいちゃんおばあちゃんとかにまで、そういう

のがあって、利用した方がいいですよぐらいな広報を、とにかく地域全体にしたほうがいいと思いますのでぜひ広報してください、お願いします。

（金部会長）

はい、広報ですね、おっしゃるとおりだと思います。子育て支援に関しては地域ぐるみでやらないといけないし、とても大事なことですよね。

それから交通に関しても、ここに住んでいる方の便利性、交通弱者のことを考えることもとても大事なんですが、インバウンドインフラとして、交通ネットワークというものは欠けてはならないものだと思います。

では、他にご意見またお願いします。赤池委員、お願いします。

（赤池委員）

先ほどの公共交通機関のこととも関連するんですが、徳島県は、高齢者も多い、糖尿病も多い、歩く歩数も明らかに全国に比べると少ない。河川敷に運動場とか、いろいろありますが、自宅の身近なところに安心して歩けるところが結構少なくて、河川敷・運動場に行くまでにも車で行かないと危ないというような現状があります。先ほどのデートする場所がないということとも関連しますが、身近な生活圏の中にスポーツとか運動とかを取り入れて、まちづくりを医療と健康と一体化して、そしていろいろなものが繋がるようにしないと、全部が点と点でバラバラで、そこへは車で行くような形になってしまう。今日も大学病院から来ましたけど、大学病院の前はもう車であふれかえっていて、おそらく、診療を受ける時にはしっかり運動してくださいねと主治医は言うでしょうけれど、行きも帰りもやっぱり車という状況です。そういう視点がまちづくりの計画に盛り込まれているのかをお聞きしたいです。

（金部会長）

いかがでしょうか。

（事務局）

赤池委員から、生活とスポーツや運動、こういったものが結びつく、連携できるような視点でまちづくりができているのかというようなお話がございました。県内におきましても、車社会ということもあり、なかなか歩いたり運動機会が少ないということは、私もよく聞く話でございます。そういった中で、今は特に、2020年の東京オリ・パラということもありまして、そういったスポーツをする機会というのも非常に注目されているところでございます。従来から、例えば、自転車においては自転車道を整備したり、様々な親水公園的なものも河川敷に設けられたということで、スポーツなり運動

ができるような環境の整備に努めているところでございます。ただ、委員さんのおっしゃったように、県内の様々な所でそういったものが全て身近でできるのかというと、まだまだ努力する余地もあろうかと思います。今回はそういったご意見も踏まえて、将来像というところにも、しっかり描いていきながら、できる限り県民の方がスポーツに触れ合えるような機会、まちづくりができるような取組を進めていきたいと考えております。

（政策創造部長）

補足的なんですが、まさしく赤池委員がおっしゃっていただいたコンセプトは、人口減少社会の中で、まちづくりをどのように考えていくのかというところにも繋がってくることで、非常に重要な課題だと思っております。なかなか一朝一夕にできるものではありませんが、理念としましては、先ほど、事務局から話しました、持続可能な社会の実現、ＳＤＧｓという話。これ大きくは１７分野で、それぞれ、飢餓、貧困から始まって、まちづくりなどいろいろやっていこうという内容です。一つの人口減少社会に中でのまちづくりとして、ここでは、コンパクトシティという概念が強く出てきておりますけども、歩く圏内で、スポーツ施設も含め、医療施設、いろんな暮らしのいろんな機能が集積、集約してくるようなまちづくりを考えていく。それが拠点として、いくつかあるみたいな、そういう長い意味での方向性というのは、確かにそのとおりであるなと思っております。また、何らかの形でこの大きな方向性、たちまち４年間で何かするというまではいかないかも分かりませんが、大きな方向性としては、まさしく、今、委員がおっしゃっていただいたご意見を、ぜひ盛り込んでいきたいと思ってございます。

（金部会長）

はい、ありがとうございます。

徳島は生活習慣病の部分で、健康に問題を抱えてる人が多いと思いますけども、運動をするという観点から考える時に、運動できる場所が身近にあるという事が大事かと思います。韓国の例を話しますと、自宅から散歩できる歩く圏内に、運動のできる器具がいたる所に設置されております。その地域に住んでいる人たちは、散歩の途中にそこに寄って、歩くだけでは足りない、筋肉を鍛えるための運動などをよくやります。このように自分の歩く圏内にちょっと運動のできる設備があると非常に良いと思います。まず県民の健康ということを考えますと、長期的な視点からそういった設備というか、気軽に利用できる拠点をあらゆる所につくるということも大事かなと思います。

（県土整備部）

県土整備部でございます。公共交通に関して、いろいろご意見頂いておりますので、少しだけ補足させていただきます。

今回の資料の中にも、公共交通に対する不満といいますか、悪いというようなご意見がたくさんあることは承知しております。そして、現在、公共交通に対しましては、行政としましても、例えば、路線バスを維持するための補助ですとか、新しく低床式のバスを買う場合の補助ですとか、いろいろと取り組んではおりますけれども、大きく言えばモータリゼーションの進展によって、皆さん便利な車の方に乗って行って、公共交通を利用しなくなった。そして、使用しなくなることで収益が悪くなって、路線網が切られていく。そしてまた、便数が減っていくというような繰り返しで更に利用がしにくくなってくる。そして、先ほどのご意見にありましたように、車を運転できないような世代、小学生、中学生、高校生、またはお年寄りの運転免許を返上する話も社会問題となっておりますし、これからの超高齢社会を迎えるにあたっては、公共交通をどうしていくんだ、どうやって維持していくんだというのは非常に大きな課題だと思います。

徳島県内におきましても、徳島市中心部、徳島駅を中心とする部分と、県都から少し離れたところの公共交通といいますと、便数も何もかも違ってきます。県内だけをとってみても公共交通、様々な課題があると思います。その中で、議論をして、ご意見頂くわけなんですけれども、公共交通の細かい部分については、しっかりと議論していかなければいけないということで、今年の８月27日に、第１回の交通ビジョンの策定委員会というのを設けまして、予定では31年夏頃に交通ビジョンを固めていくということで考えております。先ほどの金部会長からもありましたような、インバウンドを受け入れるときの二次交通でありますとか、ご意見いただいたような運転できないような方のものから、県内にあるあらゆる交通資源を有効的に使っていって、最適な公共交通網というのを県民の皆さんにどうやれば提供できるのかというのを、このビジョンの中できっちりと議論をしていきたいと考えております。またその中では、パブリックコメントですとか、県民の方からのご意見を頂く場も設けようと考えておりますので､その詳細の部分の公共交通についてはそちらの場でもしっかりと議論して、徳島県の公共交通をどうやって行くのかというのを議論して良い案を出していきたいと考えております。

（金部会長）

はい、どうもありがとうございます。

黒川委員どうぞ。

（黒川委員）

赤池委員と部会長の話を聞いてて、私も思ったんですけど、歩いて行けるところに何かがある、歩いて行けるところに遊具とかがあって、そこで人が集まったりだとか、運動する事がきるというのを聞いた時に、都会にいる時なんかは車持つ方がお金かかるんで車ではほとんど動かずに、だからペーパードライバーだったんですけど、今思えばすごい歩いたと思うんです。子供たちも普通に歩いたし

自転車とかも乗ったんです。こっちの子供たちは車に乗るのが当たり前になっちゃってるので、ちょっとコンビニ行くだけでも「歩こうよ」と言っても「遠いじゃん」とか言われて、全然遠くないけれども、これある意味教育上にも良くないんじゃないかなと思っています。歩くのが例えば当たり前だったりだとか、あのくらいの距離は歩けるよねというので毎日やっていかないと、本当に歩かなくなる。あと、過疎とかが進んで学校の統廃合が進むと、私の住んでる地域、もう一つ休校になってるところは、ドアtoドアのスクールバスでなくてタクシーなので、タクシーで迎えにまで来てくれて学校に行く。学校にタクシーで家から家まで届けてくるという感じなので、保護者とかが全然歩かないんだよね、という話をしていて。歩く機会すらなくなっちゃってる子もいたりするので、やっぱり本当に歩けるところに何かあって人が集まれるところがあって、そこで何か運動できたりおしゃべりできたりという、公共交通プラス歩く機会を作れる徳島になってほしいなと思います。

（金部会長）

どうもありがとうございます。

松﨑委員お願いします。

（松﨑委員）

黒川委員のご意見良く分かります。今徳島県で、アスティとくしまには子育て総合支援センター「みらい」というのを、少子化対応県民会議の時にお話させてもらって、作っていただいたんですけど。今まさに少子化の歯止めを、そこで、妊婦さんからの切れ目のない支援ですよね。産前産後というところを考えられるのであれば、すごい大きな夢なんですけど、徳島県立総合支援センターを早くに作るべきだと思います。アスティとくしまのフレアの中に、子育て総合支援センター「みらい」があって、ああいう間借り状態では遅れをとっております。あれができた時には、県立の一つのモデルとなるような情報が集まる所で、赤ちゃんも助産師さんの活用もあって、妊婦さんから０歳児、それから１歳児に関してはもう歩き出すと地域に子育て支援センターがいっぱいありますので、そちらの方の支援、力をお借りしてなんですけど。今、赤ちゃんの時期と妊婦の時にすごい辛い経験をすると、さっきの自殺の新聞、私も読ませてもらってたんですけど。一人目の時にすごい辛い経験をすると、二人目産みたくないということと、やはりパパの家事とか育児に関わる時間数も少ないということで。今ちょうど私たちは、次世代育成・青少年課の方で、パパの子育て応援プロジェクト事業チーム「パパカモン」という、パパたちの歌って踊ってのチームでご協力いただいてるんですけど、非常に面白いお父さんの意見も出ております。お父さんたちも関わりたくても関わりきれない、仕事も忙しいのもあるし、職場、働き方もあるんですけど、こちらの、骨子案とか地域プランのイメージとしては、アンケートもたくさんとって頂いて、十分ありがたいものを出していただけてるなと思うんですが、これは具体的なものを施策として、黒川さんが言われている、具体的なところをどう実践していくか

ということが非常に大事だと思います。今、先ほどもお話していただきましたけど、今は私たちが受託させていただいているんですけど、小学校、中学校、高校、大学の授業の中で、赤ちゃんと触れ合い授業、命の授業をさせていただいております。赤ちゃんに触れることで、結婚とか妊娠に夢を持ってもらうということと。

次に、妊娠した時に、初産婦さん、特に、妊娠とか出産の知識が得るところが少ない。一般的に、両親学級というのは少しあって、もく浴とか、出産の時の呼吸法というのはあるんですけど、もっと踏み込んだところをしないと。奇跡という命を育てていくという意識の、そこの大事な部分は、０歳児さん、妊婦さんから初産婦さん、特に初産婦さん、妊婦さんから出産の、０歳児さんまでの家にこもりがちな年齢のところはすべて、在宅家庭だけでなくて、結局は働いてる方も、育児休暇を取るので、全ての基礎、基本というか、元は、そこにくるわけなんですね。そこで、子育てが嫌か、楽しめたか、地域の力を借りれたかというのが、子どもを産むか産まないかに懸かってくるので、県立の障がい者交流プラザがあるように、県立総合福祉センターがあるように、県立の子育て支援センターというのもきちんと建てて、そこで顔の見える関係性を作った方が良いなと思います。なんであんなに間借りなのかなとすごく辛い思いをしてます。

実は今県の方では、赤ちゃん授業と、先ほどおっしゃった、生後２か月から５か月のファーストベビー、それから助産師さんの産前産後も含めたりとか、ホームスタート、これは予算がなくなってしまったんですけど、家庭訪問型子育て支援をしてます。すごい良い取組を先駆的に徳島県はされてるすごい良い事例だと思うんです。それが繋がらないというのがもったいないと思います。今、新しくクーポンができるとお聞きしたので、在宅家庭ということで、期待は持てるんですけど。私たちホームスタートの予算は県の方でも四年前からなくなってるんだけど、お母さんの悩みとか申し込み電話は絶えないんです。私たち事務局はもう全くお金ゼロで、困ってるお母さんの電話があったら、仕事の前に行ったり日曜日に行ったり、要するに双子ちゃんであったり、三つ子ちゃんであったり、今１０代のお母さんが１８、１９で出産して、今２２なんですけど、３人子育てして叩きそうです、もう気が狂いそうですと言われたら行かざるを得ないんですよね。本当にせっかく良い取組をされてるところ、うまいことさっきおっしゃったようにそれを線につなげていくということは本当にこう中期的なプランがあるけども、具体的に、今、せっかくいいものをしているので、きちんと総合的にまとめることがすごく大事かなと思ってます。

あと３つなんですけど、シニアの方のそういう県立総合支援センターがあることによってシニアの方の活用ができるんです。今、被災児童保育ボランティアさんもかなりの受講生がいてるんです。それから、子育て支援員も今、今年で４年目続いて、保育士、保育補助という形で履歴書に書けますからね。知事さんの修了証ですから。その方たちも上手く就職できた人はいいんですけど、せっかく資格を取っても活躍する場がない。あと、子育て支援員やった後、シニア向けの子育て支援でアイランドさんが受託して今しています。そこも皆さん今時の子育て事情とか寄り添うとか、すごくお母さん

のための知識を得てるのに活躍する場がない、ボランティアで活躍する場がない。その場を県が作るべきなんですよね。いざ地震が起きた時に、今、徳島で起きた時に本当に怖いです。関西広域のところで災害というのが徳島県の担当なのですごく心強いところではあるんですけど。子育て、災害弱者、女性、妊婦さん、重度障がい、発達障がい、アレルギー、アトピー、外国人の関係、そのことの全てにおいての拠点はないんですよね。自主的に私たちが今、ボランティアでとくしま子育て防災ネットワーク立ち上げてるけどやっぱり無力です。日頃からなんとか活用しようとするんだったら、そういう場を設けないかんし、講座ばっかりして修了する人がいっぱいいてるのに、その人たちは眠ってるんですよね。活躍する場がないですよねと、これもう２０何年間言い続けてるんです。

あとペーパードライバーのことなんですけど、実はすきっぷに来られている県外の方、ペーパードライバーで非常に困られています。タクシーとかバスに乗って来られます。自動車学校に直接私が電話しました。ペーパードライバーの方で託児サービスがありますか、それから、単発でペーパードライバーのお母さんの方が受講できますかと、そしたらありませんとおっしゃった。お母さんはありませんということやったけどそこをもう１回、私が２回ぐらい電話して押したら夏休みとかは学生さんが多いので来てもらったら困りますと。学生さんが終わったらまた考えるのでお声がけくださいということだったので、あるお母さんに１つの自動車学校を紹介したら見事に振られました。担当が変わったらそんなんしてへんと振られて、また違うところに結局バスを３０分かけて行ったところで受け止めてくださって、お家まで送迎もしてくださって、託児はなく、保育士はいてないけど、職員が見ますということで見事にその方が免許証取られて旦那さんの、転勤族なので、旦那さんの車で世界が広がりました。もう目を輝かして今すきっぷとか子育て支援センターに来られてます。たったそのペーパードライバーの一部と思うけど本当にすごく重要なことだと思うので、そこで徳島での子育てが楽しめるか、頑張れるかということになると思います。

子育て支援に関してはほっとけないというか早く具体的に立ち上がってほしいなと思いました。以上です。

（金部会長）

ありがとうございます。

（県民環境部）

県民環境部でございます。松崎委員、子育て支援のために日々ご尽力いただいてありがとうございます。現場からの貴重なご意見ありがとうございます。

拠点につきましてですけれども、今、アスティとくしまの中に間借りしてるということで、大変ご不自由をかけてると思いますけれども、なかなか今のご時世、新しい施設を構えてというのはすぐにはできるものではございませんので、当面の間は御辛抱いただけなければいけないとは思います。

それから、シニアの保育への活用、今、研修事業でも大変お世話になっておりますし、本県といたしましても、シニアの方々を保育現場にどうやって入っていただけるか、その能力を存分に発揮していただけるかというのは、非常に大きな課題として認識しているところでございまして、そこは、今日のご提案をいただきまして、十分考えていきたいなと思っています。

（事務局）

この長期ビジョンの一番最初の『「未知なる社会への挑戦」かがやくとくしま』というところの中で、大きく、子育て、子どもから大人になるまでのそういった支援と、人生100年時代と言われる中で、いわゆるアクティブシニアといわれる方が非常に多くなった、そういった方にもしっかり活躍いただけるような社会づくりというのは、非常に大事になってきております。特に、子育ての部分は、やはり地域ぐるみで支援していくような仕組みというものが非常に大事であろうかと思いますし、黒川委員からお話があったように、しっかり発信もして、点じゃなくて、線に持っていくと。皆さんに十分理解していただいて、活動していただくということは、重要ではないかと考えておりますで、この計画を具体化していく中で、しっかりと受け止めさせていただいて、考えていきたいと思っております。

アクティブシニアの活用につきましては、保健福祉の分野以外にも、農業とか様々な分野で、県としても重要な課題と認識しておりますので、様々な行政分野の中で、この計画を通じて、しっかり考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

（松﨑委員）

（中期プランイメージの分野について）結婚、出産、いきなりじゃなくて、結婚、妊娠、出産、なんですけど、私の中では。今回実は娘が出産したことがあって、いかに初産婦さん、妊婦さんの知識不足と病院の助産師さん、医師が若い方で、全然異常に気がつかず、３３時間の陣痛で、陣痛促進剤で、一般論しか言わなかったんですよ。さすがに、一番しんどくて、自分の状況が分かってるのが娘だったので、最後に言ったんだけど、お医者さんが来るまで我慢しなさい、我慢しなさい。助産師さんがお医者さん、呼ぶだけの力がなかったんです。後から聞いて分かって、別に娘がどうのとか、私は無事に産まれてるので、別に、なかったんですけど、後からいろんな助産師さんに聞くと、ありえない状況だということをおっしゃってました。帝王切開したと、急遽帝王切開になったんですけど、帝王切開した時、初めて異常に気がついて、この子、こうだったから生まれんかったんやなって、違う先生が来て分かって。若い女医さんは知らなかったです。３３時間、どんどんどんどん、陣痛促進剤ということがあったんです。この妊娠時期というので、板野町で、今、こんにちは赤ちゃん事業だけじゃないんですよ、生後２か月から５か月は、こんにちは赤ちゃん事業の訪問があるんです。今すごい取組されてるのが板野町なんです。板野町は初産婦さんの検診してます。妊婦訪問、検診であり

ません。初産婦訪問しているんです。初産婦さんに、妊娠とか自分の体のこと伝える人が周りにいないんです。核家族、それから、おばあちゃんが、あたしたちの年代が５０代なんです。その５０代が事を伝えれる年代ですけど、あたしたち年代だったらもう伝えることができないです。そこで、助産師さんの今のトップの顧問とか会長さんぐらいの年齢の方がきちんと妊娠期にお母さんに正しい時期、お医者さんや慣れない助産師さんのいいなりといったら失礼なんですけど、これそのまま、多分、陣痛促進剤でそのままいくと子宮破裂で亡くなるということがあったんです。そこで、娘がストップかけたんでなんとか帝王切開に急遽生まれましたけど。助産師さんに聞くとその助産師さん自体も最近無痛分娩で助産師さんが後ろにいてると。お医者さんに任せきり、お医者さんに危険だというところの、呼べないところに来てるので、自分の孫に関わる祖父母の知識も伝えられない、情けない年代になっとんです。だから、この妊娠時期の知識、昔、大事なもの伝える時期が必要なのでいきなり妊娠、出産ではないんじゃないんかなということ。結婚、出産ではないんかなということを言いたかったのに、すいません最後に大事なこと言わなかったです。

（金部会長）

ありがとうございます。時間が迫ってきておりますのでまだご意見を述べていない方にまずお願いします。植本委員お願いします。

（植本委員）

はい、県西部から参加した者として、いただいた資料は全部繋がっている話だなと思っていまして。今この時期だから気になるのは、防災の部分なんですけれども、対策の一つに県西部ですごく気になるのは無くしてしまったらもう元に戻らない、経年変化の魅力みたいなものが県西部ならではだと思うんです。災害発生時には全部総崩れになってしまいそうな脆いものなんですけど、でもそれがなくなると原風景がなくなって、インバウンドもなくなって、全部繋がっているような気がするので。私は、この防災の委員にも呼んでいただいているので、そこでもお話ししたんですけど。そればかりは多分民間ではどうしようもなくて、何をどう対策したらよいか分からないなと思う不安が一つあります。それが防災についてなんですが、それに伴って地域の高齢者がすごく多い地域でもありますので、防災食、食べ物について食事療法が必要な人がとても多いと思うんですよ。例えば塩分がダメとか、高カロリー食が必要な肝臓の人とか、そういった類の食事に関する防災の意識というのも今から持っておかないと、急に何かが起きた時にコンビニのご飯を配られても食べられない人たちが多いんじゃないかなと思いまして。今、対策として社会福祉法人の方々と一緒に開発を進めているんですけれども、そういったところも、どのように県に絡んでいただいたらいいのかとか、その辺はまだ真っ白じゃないかなと思います。

それと、そこに繋がってるんですけど、子どもたちに関する教育みたいな部分に関しては、一つ気

になるのは、私は今年から自然がとても集まってるところで森の幼稚園を一緒にやってる人と組んで一緒に仕事してるんですけれども、とっても都会からそれを目的に遊びに来たりとか移住を考えたいという声を聞いたりとかそういった、川が目の前にあるっていう環境で活動してるんですけども、そういったもの、森の幼稚園の特徴としては食育というものについて、やっぱり変なものを使ってないという自信がある食べ物を提供していて、それに惹かれてやって来る親子さんがすごく多くて。ふと夏休みが終わって自分の元の小学校に戻ってみると、食事の内容としては、いろんな子供の体に良いかどうか分からないものが入ってるという状態がやっぱり気にはなります。食育については一つも触れてはいないので、何か入れてもらえたらいいなとか。せっかく農業やってらっしゃる方々がたくさんいる地域でもありますので、そういったところから上手いこと繋がって、何か良い食事の提供とかないのかなと。それは都会でも一番の問題で解決しにくい部分なので、ここでやったらすごく移住にも繋がるんじゃないかなと思います。移住に関して考えた時にやっぱり防災が気になると。全部繋がっているなという気がするので、本当いくつも思うところはあるんですけれども、ちょっとそこについて伺いたいかなと思います。

（金部会長）

どうでしょうか。

（危機管理部）

危機管理部でございます。植本委員におかれましては、復興指針の検討会でもお世話になっておりまして、先般も地域の資源という観点でのご意見を頂いたところでございます。どうもありがとうございます。

ご質問ですが、何か災害が起こった時には、まずは避難してくださいと、その中で各自の準備でありますとか、避難所の準備でありますとか、そういうところの検討を進めてまいったところでございます。今おっしゃっていただいた、災害時要援護者など、様々な状況の方にとって、どのような準備をしていくのかというところは、これから進めていかなければならない状況であり、そういう観点のところに来たのではないかなと認識しております。今後は、関係者の方も含めまして、市町村の方、県の関係部局と連携して、しっかりと検討を進めて参りたいと思いますので、ご理解くださいますよう、よろしくお願いいたします。以上でございます。

（金部会長）

よろしいでしょうか。

（教育委員会）

教育委員会でございます。食育の話が出ましたので、補足させていただきます。徳島県では、児童生徒が地場産物の食文化についての理解を深めるといったようなことと併せまして、生産者ですとか、食物への感謝の気持ちを持つような教育をしております。それから、特に学校給食には地場産物を使用いたしておりまして、生きた教材という形での活用を進めております。本県の地場産物の活用率は全国平均よりもかなり上回っているような状況でして、可能な限り地場のものを使いながら生きた教材としての取組を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

（金部会長）

はい。ではまたご意見頂きたいと思います。真鍋委員、お願いします。

（真鍋委員）

はい、人口の増加という点では、やはり仕事の創出と教育の充実だろうなと思っております。仕事の創出という点でお伺いしたいんですが、首都圏の介護難民や医療難民が近い将来かなりの人数出るだろうということで、地方への受け入れという話があったかと思うんですけれども、徳島県としてのその受け入れ先として用意するスタンスなのかどうかというところと、そういった視点がですね、今回のビジョンとか中期プランの中にそれが入っているのかということをお伺いしたいと思います。

（金部会長）

いかがでしょうか。

（保健福祉部）

保健福祉部でございます。介護難民の方を都会、都心部から受け入れるということを、今のところはそういったことは想定はしておりませんけども、県内の介護施設、特別養護老人ホームとか老健施設の整備率というのはかなり、全国でもトップクラスで進んでいるところでございます。そういった中で人口減少時代という中で、また、そういった受け皿とかいうことで対応できる余地とかいうことも検討していく時期がまた来るのではないかなということは想定してるところでございます。以上です。

（金部会長）

よろしいでしょうか。はい。

（政策創造部長）

今の話でたちまち、例えば、都会で介護医療に加わっているまさしく難民で、離職しなければなら

ないというところの切羽詰まった段階での対応ということではないんですけども、地方創生の中のコンセプトとして、いわゆるアメリカなんかじゃ、CCRCという形で、リタイアメントした人が地方で移住して、その快適な地方の中で一定の介護医療環境の中で快適に暮らしていくというようなことが進められています。これは、我が国でも日本版のCCRCみたいな形で方向性が出されておりまして、これについては、特に県西部の三好市なんかは社会福祉法人の方が中心になって、まだまだこれからなんですけども、そういう形でのまちづくりをやっていこうという一つの動きはございます。あるいは美馬市さんだとか県南でいったら海陽町さんなんかも、そういうひとつのCCRC、都会の人たちを受けていくまちづくりというのあるんだよねということです。一方で、いわゆる介護を必要とする段階で地方に来るのかという、介護保険制度だとか社会保障の関係のコスト面の話の中でどうなのかというご意見も一方でありまして、都会と田舎、地方がwin-winとなる形での人口減少あるいは高齢化社会の中での全体の社会保障システムとか、その中で、我々も意味のあるまちづくりというものは、方向性として考えていきたいと思ってございます。

（金部会長）

はい、ありがとうございます。

（保健福祉部）

ちょっと補足で、先ほど山本部長からCCRCの話があったんですけども、県内におけるCCRCの取組の進捗状況なんですけども、美馬市さんとか三好市、海陽町の3市町が推進する意向を示しておりまして、いろいろと移住希望者に対して来ていただくような準備を進めているところでございます。引き続き、まちづくりに繋がる、CCRCを通じまして、取組を支援していくこととしております。以上でございます。

（金部会長）

はい、ありがとうございます。では、大平委員と宮脇委員せっかくですのでぜひ、貴重なご意見を頂戴したいと思います。

はい、大平委員お願いします。

（大平委員）

植本委員がおっしゃられたように、やっぱりこれからのビジョンの中で、安心安全で子どもたちの未来のためにと考えた時にやっぱり「食」かなと思いまして。食育も大事なんですけれども、やはり作るものが本当に安心、安全じゃないとどうなのかなというのは、常々私も旅館やってますので思うんですけれども。例えば、植物で野菜でいうと、近年やっぱり生産性の向上とかという意味の中で、

F1種の種が増えてきてるんですけども。やっぱりもっともっと在来種の種で栽培する野菜を増やしてほしかったりですとか、調味料ひとつ言えば、科学技術の継承で添加物があります。腐らないし、確かに安全かもしれないですけども、体に及ぼす影響というのは計り知れないところもあるので、やはりそういうところに力を入れていって、ひいてはこれが徳島の味であるしブランドである。そしてインバウンドの方も非常にオーガニックのマーケット大きいので、そういう意味でも徳島をブランドとして発信してほしいなというのは思いました。

（金部会長）

ありがとうございました。宮脇委員お願いします。

（宮脇委員）

資料１－２、１３ページなんかを見るとつくづく思うんですが、徳島の良いところは、豊かな自然とか阿波おどりとか、こういう意見は多いのは分かっていて、良くないところというのは、交通の便が悪いとか田舎すぎるとか何もないところとか､今もこういうのは昔から変わってないと思うんです。

資料１－１の長期ビジョンの広域的な移住というところの意見として、徳島の魅力である田舎感と堂々と書いてるんですけども、この徳島としてはこの田舎という、そのイメージを大事にしていくという中で、ですから、守るものは守った上で、何で攻めていくのかなというのをぜひご検討いただいて、徳島の特化したものは何かというようなところを出していったらいいんじゃないかなと思い、ただ、何を出せばいいのか、私には分からないんですけど、そのようにすればどうかなと思いました。

（金部会長）

はい。

（事務局）

宮脇委員から、パブリックコメントにあるように、徳島、田舎というところが、マイナスイメージというご意見がある一方で、そういった徳島の魅力ということで、特化して出していけたらというご意見いただきました。そういった中で、今、東日本大震災を契機といたしまして、県内にサテライトオフィスを誘致してくるという取組を進めておりまして、直近でいうと、大体６０社を超えて誘致が実現している状況でございます。これも、東部、それから南部、西部ということで、県内全域で、立地、誘致が進んできてるという中で、やはりひとつの大きな強みというのは、徳島の自然とか、その地域との関わりというものが非常に魅力として映っている。ブロードバンド環境で、仕事ができるというだけじゃなくて、そういったところの大きな魅力によって、徳島への立地、行ってみようかというような形になっているということも聞いております。宮脇委員さんもおっしゃったような、田舎感、

決してそれを否定するのではなくて、そこをしっかりと活かしていく、徳島県の強みとして変えていくような形で、いろんな施策にも活かしていけるように、取り組んでいきたいと思っております。

（金部会長）

はい、どうもありがとうございます。それでは、本日欠席されています、小田委員から事前にご意見を頂いているようですので、事務局から説明をお願いいたします。

（事務局）

それは、本日、ご欠席の小田委員から、事前にお送りさせていただきました資料を確認いただいて、二点ほど、ご意見、ご提言を頂いております。

一点目につきましては、資料４の長期ビジョン（骨子案）ということで、2060年頃の目指すべき将来像に関して、三本の柱で５点ほど、それぞれ書いてございますけれども、それをもう少し具体的に記載してもいいのではないかという意見でございます。

それからもう一点としては、長期ビジョン、それから、次期総合計画全般に関しましては、人づくり、それから、リカレント教育に関する内容をもっと盛りこんでいってほしいというようなご意見をいただいたところでございます。

まずは一点目の将来像、さらに具体的にということにつきましては、今回は骨子案ということで、この長期ビジョンの大枠を説明する内容となっております。今後、本日の部会、さらに、総合計画審議会の全体会、こういった会議の中で、ご意見をいただいて、それを踏まえながら、より具体的に記載を詰めていきたいと考えてございます。

それから２点目、人づくり、リカレント教育に関する内容という点につきましても、長期ビジョンの中でも触れてございますが、今回の新しい計画の中でも、重要な要素と私ども考えてございます。ご意見いただきながら、しっかりこの点についても肉付け検討して参りたいと考えてございます。以上でございます。

（金部会長）

ありがとうございます。時間になって参りました。

（黒川委員）

少しだけお時間をいただければ。災害が起きた時のこと、松﨑委員が他の会とかでも、いろんな提案とかしてる。けれども、例えば、拠点が間借りだったりだとか、シニアの人を活用できないというのも何年も前から言ってる。災害、明日起こるかもしれないんですよね。いろんなことが急がなきゃいけない事があると思うんです。優先順位は多分あると思うし、全部が急げるとは思わないです。で

も災害は本当に、明日起こるかもしれない。言ってたのに何もしなかったっていうのは、私が来た時から、南海トラフが起きる、南海トラフが起きると、７年も言ってるんで、それは今、考えるようになりました。それでは本当、遅いと思うので、優先順位をはっきりさせて、それぞれ、皆さん人事異動もあると思うけれども、急いでください。お願いします。

（金部会長）

それではもう時間になりました。意見交換を終了したいと思います。本日の部会の審議の経過及び結果については、徳島県総合計画審議会部会設置規程第23条第2項の定めにより、総合計画審議会に報告させていただきたいと思います。県においては、委員の皆様から頂いた貴重なご意見やご提言を踏まえて、新たな総合計画の策定に向けた作業を進めていただきたいと思います。なお、本日の会議の内容について聞きたいことがございましたら、後日でも結構ですので、事務局の総合政策課までご連絡いただけたらと思います。本日、委員の皆様にはお忙しい中、ご足労いただいて、本当にありがとうございました。最後に事務局から、何か連絡事項等ございますでしょうか。

２　事務局説明

・会議録の公表については、事務局で取りまとめた上、発言された委員に確認いただいてから、発言者名も入れて公開したい。

（以上）